

# 『救急外来受診の手引き』

公立世羅中央病院 院長 末廣 眞一

## どんな時に緊急で

### 病院を受診すべきか

平成25年7月1日より公立世羅中央病院では軽症患者さんに時間外選定療養費をいただくこととしました。これは「緊急の受診の必要性のない患者さんに診療報酬上の時間外加算ができない」制度に対する国が認めた病院への救済措置です。最近、軽症患者さんに時間外受診を控えてもらうという目的で、都市部を中心にこの制度を取り入れる病院が全国的に増えてきています。しかしながら、緊急を要する重症患者さんの受診が抑制されてしまう危険性も否定できません。そこでこんな時は緊急に病院を受診した方がよいという指針を何回かに分けてお示しします。

#### ＜突然に起こり生命に関わる病気に＞

世の中には色々な病気がありますが、その頻度はまちまちであり、めったにならない病気の心配をする必要はありません。持病があつて急変する場合は、かかりつけ医より緊急時の対応を指示されていると思います。まったく元気であつた人が突然に発症し、生命に関わるような病気で頻度の多いものが問題なのです。そのような病気に心筋梗塞、脳梗塞、脳出血、消化管穿孔による腹膜炎があげられると思います。心筋梗塞では胸の痛み、消化管穿孔ではお腹の痛みが、突然に起こるわけですが、胸やお腹の痛みをおこすものとしては他にも色々な病気があります。そこで痛みだけではなく、痛みに伴う症状をよく観察することが必要となります。まず痛みの強さが尋常では

ないので、顔をしかめていたり、うずくまって歩けなくなったりします。冷や汗をかいていたり、顔面が蒼白であつたりしているときは早急に病院を受診することが必要です。

脳梗塞やくモ膜下出血以外の脳出血では痛みはありませんが、突然に、手や足が動かなくなったり、言葉が出なくなったり、目が見えにくくなったり、だんだん意識が遠くなるようなこともあります。めまいや吐き気を伴うこともあります。逆にめまいや吐き気だけの場合はこうした病気の心配は必要ないでしょう。くモ膜下出血ではバットで殴られたような激痛が、突然に起こります。徐々に現れるズキズキする拍動性の頭痛の場合、他に何の症状も伴っていないければ脳出血ではありません。

もちろん症状がひどくて我慢できない場合には、どんな病気であれ、緊急に病院を受診するべきです。胆石発作や尿管結石などのように痛みは激しいが、命にはそれほどかわらないこともあります。しかし病院で診断されるまでは、その後どうなるか誰にもわかりません。逆に我慢できるような症状でも我慢せずに緊急で病院を受診すべき病気もあるのです。

次回より各症状別に、緊急で病院を受診した方がよい場合、翌日まで待てる場合を解説していきます。

